

News Release



平成27年11月13日

各報道機関文教担当記者 殿

平成27年度国立大学改革強化推進事業の採択について - 金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学による共同大学院設置構想 -

このたび、平成27年度文部科学省「国立大学改革強化推進事業(※)」において、**金沢大学及び北陸先端科学技術大学院大学が共同で申請**した「隣接する総合大学と大学院大学の連携による“新たな融合型大学院教育モデル”の提唱 ～共同大学院設置構想による“科学技術イノベーション人材”の育成を目指した教育研究機能の強化及び組織運営改革～」が採択されましたのでお知らせします。

同事業においては、**金沢大学の持つ“総合大学のスケール・多様性”、北陸先端科学技術大学院大学が持つ“大学院大学の専門性・特殊性”というそれぞれの特色と、石川県内に隣接する大学という地の利**を最大限に生かし、**平成30年度を目途に、領域融合型の共同大学院として「先進融合学術共同専攻(仮称)」を設置**します。

これにより、新しい研究領域に挑戦する“新たな融合型大学院教育モデル”を構築します。

今後は、共同大学院の創設に向けた教育カリキュラムの構築を進めます。

また、国内外のインターンシップや研究留学の支援、企業・自治体等との連絡・調整のため、両大学が協働し、「コーディネートセンター(仮称)」を設置します。

併せて、社会におけるニーズの反映や課題解決に向けて、産業界・自治体等と連携し、共同研究や共同セッション等を積極的に展開することとしています。

なお、**平成27年11月16日には、【別紙1】のとおり、両大学で本事業に係る連携協定の締結式および第一回協議会を実施**します。

当日は、質疑応答の時間を設けますので、ご質問ありましたら、その際にお願いたします。

(※) 参考：文部科学省「国立大学改革強化推進事業」

機能強化に向けて、各国立大学が組織的に推進していく大学改革の取組に対して、「国立大学改革強化推進補助金」により支援

「ミッションの再定義」で明らかにされた各国立大学の有する強みや特色、社会的役割を中心に、第3期中期目標期間(平成28年度～)を見据えた国立大学の具体的な改革構想をさらに加速化するための事業

各大学の問い合わせ先は【別紙2】のとおりです。

金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学
共同大学院の設置に向けた連携協定締結式

日時 : 平成27年11月16日(月) 9:00~9:30
場所 : ANAクラウンプラザホテル金沢 4階「雲雀(ひばり)」
出席者 : 金沢大学
山崎 光悦 学長
柴田 正良 理事(教育担当)・副学長
北陸先端科学技術大学院大学
浅野 哲夫 学長
寺野 稔 理事(大学改革, 研究・国際・産学連携担当)・副学長

式次第

1. 締結者, 出席者の紹介
2. 趣旨説明
3. 連携協定書署名
4. 写真撮影
5. 締結者挨拶

金沢大学長 山崎 光悦

北陸先端科学技術大学院大学長 浅野 哲夫

6. 報道機関向け質疑応答

先進融合学術共同大学院設置検討協議会

日時 : 平成27年11月16日(月) 9:30~
場所 : ANAクラウンプラザホテル金沢 4階「孔雀(くじゃく)」

※ 協議会は、冒頭のみ撮影可能です。

【別紙 2】

○問い合わせ先

《金沢大学》

(本件照会先)

金沢大学グローバル人材育成推進機構教育政策室 枡

Tel : 076-264-5020

(担当)

金沢大学総務部広報室 寺口

Tel : 076-264-5024

《北陸先端科学技術大学院大学》

(本件照会先)

北陸先端科学技術大学院大学総務課 戸田

Tel : 0761-51-1042

(担当)

北陸先端科学技術大学院大学大学戦略・広報室 能村

Tel : 0761-51-1031

[総合大学のスケール・多様性]と[大学院大学の専門性・特殊性]を生かした“知の創出”機能の強化 教育・研究機能の強化

★相乗効果により強みを更に強化

異質間融合

強み・優位な研究領域を相乗的に組み合わせ、「先進融合学術共同専攻(仮称)」を創設(平成30年度予定)

例えば…

革新的バイオ・ メディカル分野	(金)栄養・代謝領域 (J)次世代バイオデバイス領域 (J)高度人間情報処理領域 等	未来社会 創造分野	(金)機能性超分子マテリアル領域 (金)再生可能エネルギー領域 (J)創造的デザイン領域 等
--------------------	--	--------------	--

- 幅広いバックグラウンドを持つ学生に対し、これまでの研究領域を礎としながら、**フィールド実践を重視した分野・領域融合型**の教育研究を展開
⇒社会の要請である新たな研究領域の開拓や、高い付加価値を生み出せる新しいタイプの“**科学技術イノベーション人材**”を育成する
- 共同専攻の創設により、教育・研究領域の“壁”を打破し、“国際頭脳循環のハブ拠点化”を目指す

★それぞれ有する課題を補完



学士～大学院課程はいわゆる煙突型(一貫型)

…異分野融合的、学際的な教育研究を展開する仕組みの
強化が課題



世界・全国から学生が参集

…地域企業でのインターンシップ等、**地域の足場の形成が課題**

これらにより

- 社会が求める“**新たな融合型大学院教育モデル**”を提唱できる(産業界と連携した「知のプロフェッショナル」の育成)
同時に、理工系人材育成の主流である「学士～大学院課程6(9)年間の一貫型教育」**(いわゆる煙突型)によらない教育モデル**を提唱できる
- 新たに創出されたイノベーションを求め優秀な人材が石川に集まると同時に、石川から世界に人材を輩出することによって、**新たな研究領域を創出・開拓し、国際頭脳循環のハブ拠点**となる

組織運営等のシステム改革

- 2大学協働の「**コーディネーターセンター(仮称)**」を創設、双方の職員を配置し、「国内外のインターンシップ・研究留学支援」「企業・自治体との連絡・調整」を実施
- 事務連携協力体制を構築するとともに、**積極的な人事交流を推進**し、組織の活性化に資する組織運営改革を推進
⇒本事業を契機に「**事務局調整連絡会議(仮称)**」を設置し、将来的な事務局組織の一元化も視野に、更なる連携協力体制構築を検討

同地内連携

有機的な大学間連携・産学連携による機能強化

隣接する2大学という地の利を最大限に生かし、

- ・ラボローテーション等の有機的連携により、**あらゆる教育研究の「場」と「機会」の共有**を実質化する
- ・地域課題を共有するとともに、企業(産業界)・自治体等とも連携し、課題解決に向けた共同研究や共同セッション等を積極的に開催する

これらにより

- 将来的な事務組織一元化も視野に、**2大学の組織の活性化に資する積極的な組織運営改革を実現する**
- 地域課題を世界的視野で捉えることが可能となり、大学発の実践的課題解決策の提案ができる
- 本共同専攻の研究を基盤とした**イノベーションの創出・新たな産業の創出が可能**となる